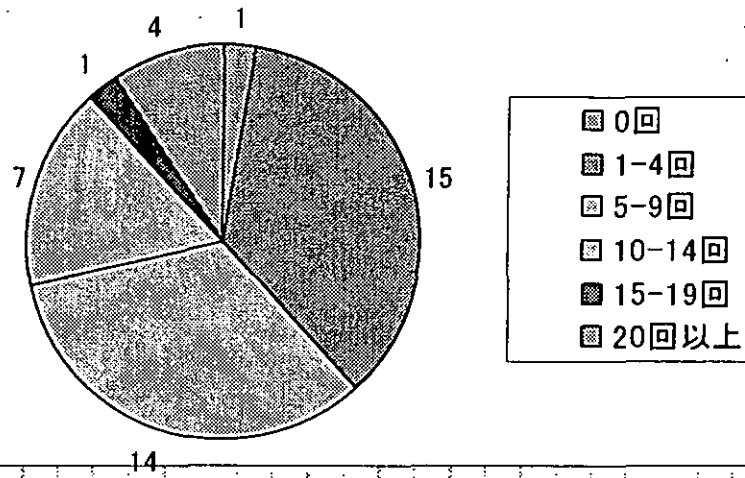


テレパソロジー実施限度回数/月

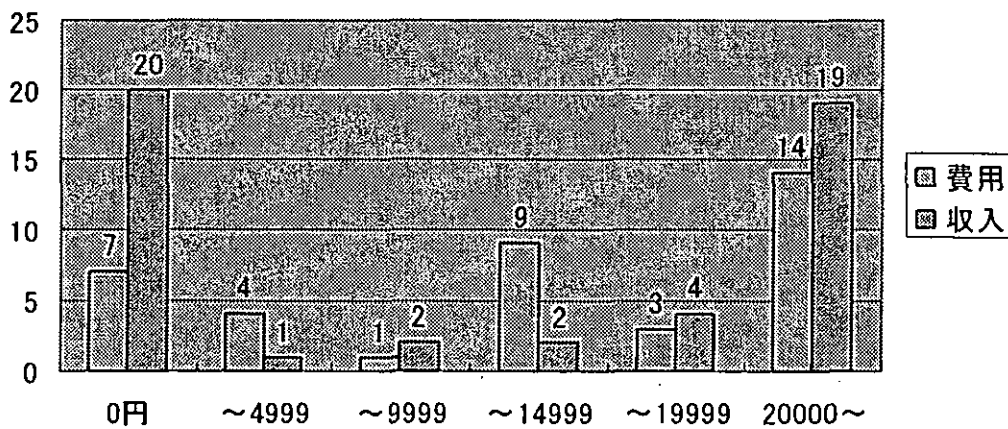


2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

21

テレパソロジーの費用・収入(月額)

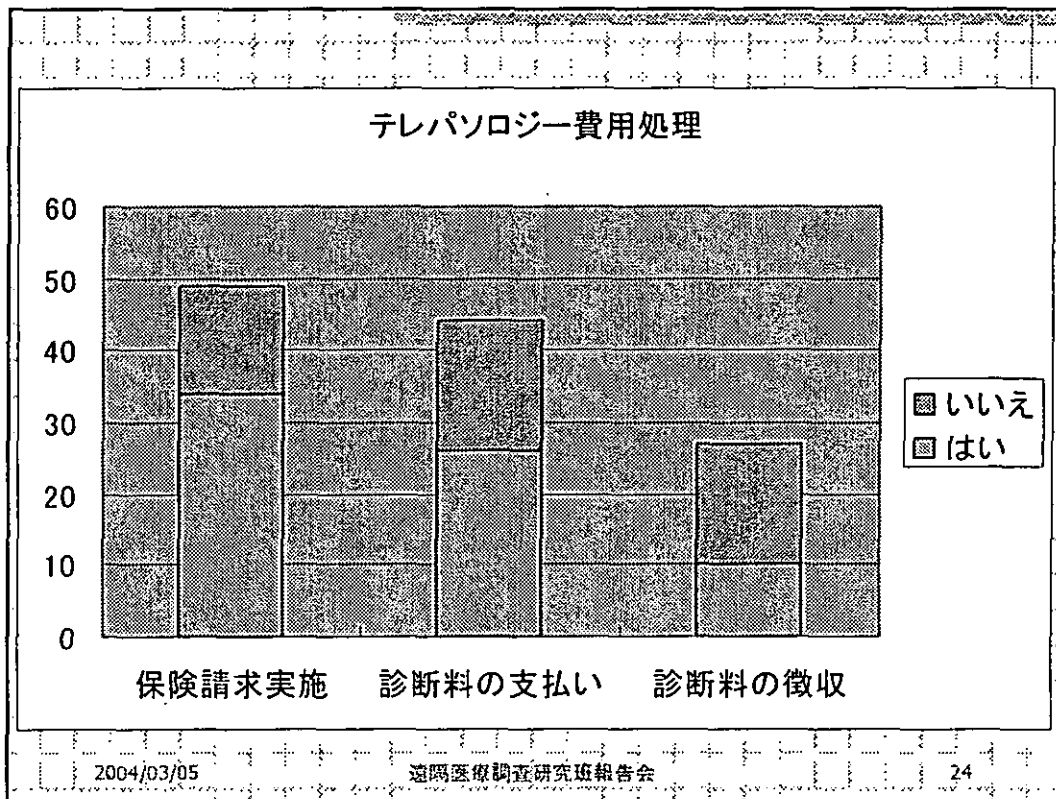
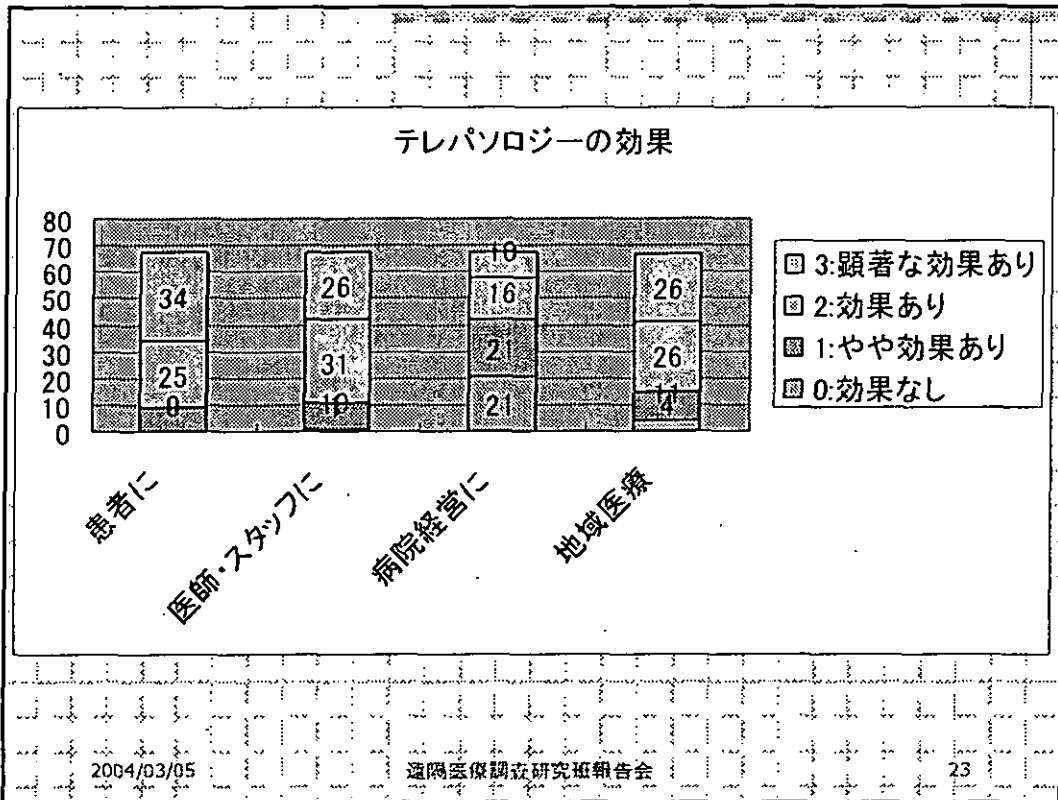


	費用(万円)	収入(万円)
最大	90	20
最小	0	0

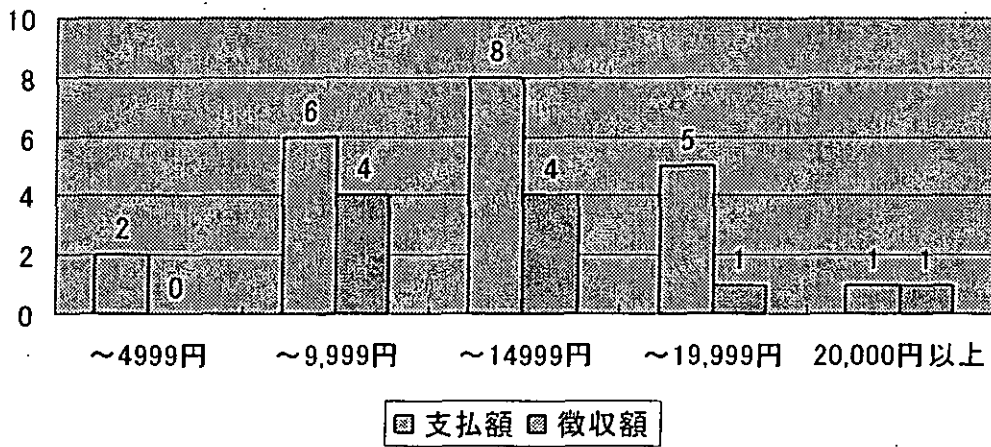
2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

22



### 術中迅速テレパソロジー料金

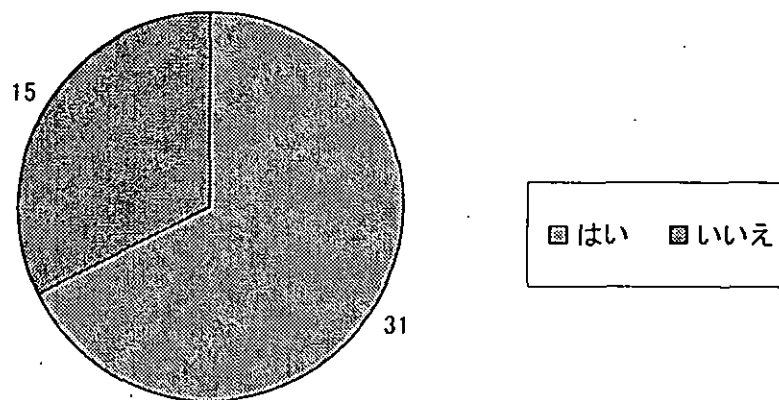


2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

25

### テレパソ利用を患者に説明し同意を得ているか

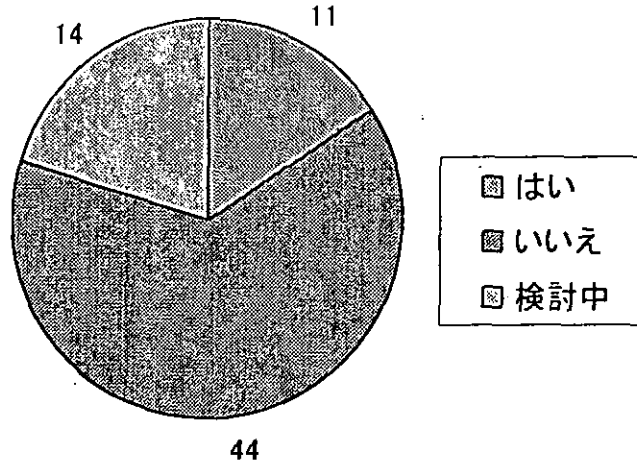


2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

25

ガイドラインに基づくテレパソ運用をしているか

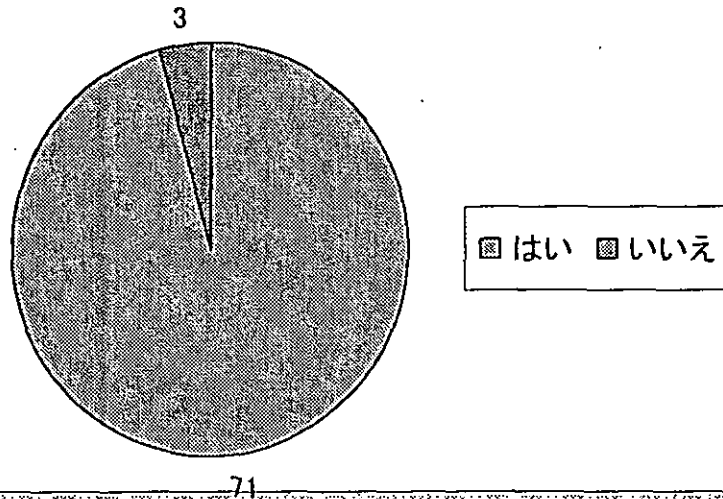


2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

27

テレパソロジーの継続は可能か



2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

28

## テレラジオロジーの概況分析 研究協力者 長谷川高志 セコム株式会社

**研究要旨** アンケート調査では実施施設85件について、収入の規模、実施施設の特徴などが明らかになってきた。実施施設は大学病院や大規模な公的病院が多いが、接続件数と収入では少数の商用事業者が活躍している。しかしながら病院でも、かなりの収入を得ている施設も登場している。テレラジオロジーはシステム技術的に成熟しており、医療上も落ち着いたものとなっていると考えられているが、撮影側施設の検査水準に対する不安も指摘されている。実施者や依頼者の意識として、単なる診断ではなくてコンサルテーションとして捉える施設が増えている。地域医療連携としての意識の変化とも考えられる。

### A. 研究目的

本研究班で網羅的に調査している国内の遠隔医療について、特に遠隔放射線画像診断（テレラジオロジー）の実施状況を抜き出して、分析することを目的とする。

### B. 研究方法

全体アンケート結果の中から、テレラジオロジー実施施設および診療コンサルテーションと回答した中で明らかにテレラジオロジーに入れるべきものを抽出した。

その中から、施設種類・接続件数・収入・保険請求について、クロス集計を行った。

それにより、大規模で高収入なテレラジオロジーを中心とした概況分析を行った。

### C. 研究結果

添付資料に分析結果のグラフを示す。

### D. 考察

#### (1) 施設種類と施設規模

大規模病院での実施件数： 大学病院  
中規模病院の実施件数： 公的病院  
小規模病院での実施も広がっている。  
実施施設の裾野は広がっている。

#### (2) 施設種類と接続件数

商用事業者の接続件数が多い。大半の施設では、数件以下である。一方で、病院でも、接続件数の大きな施設が出現。

#### (3) 施設種類と収入

商用事業者が高収入である。一方で半数以上が収入は無い。中には病院でも数十万の収入のケースがある。

#### (4) 接続件数と収入

接続件数が多いほど、収入も多い。収入が数十万円以上では、商用事業者が多い。病院でも、数十件接続・数十万円プレーヤーは出ている。

#### (5) 保険請求

保険請求している施設は少ない。

#### (6) 医療の質、実証に関する意識

テレラジオロジーは、技術的には満たされている。実証データも、最重要としない回答が少なくない。その一方で、顔が見えない。臨床情報の不足。等の品質上の不安意見もある。撮影側の技量のバラツキの問題を指摘する意見は、医学放射線学会（遠隔画像診断部会）でも出ている。

単なる診断のみでなく、診療コンサルテーションに意識が向いている施設も出現している。テレラジオロジーに関する意識が進化している。

経済的には苦しい。費用面の苦しさ、継続性への不安意見もある。前向き・後ろ向きの意見が分かれている。

### E. 結論

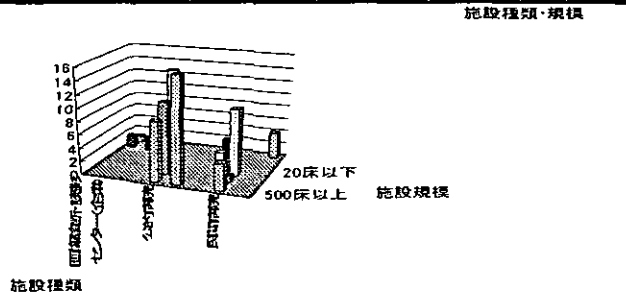
- (1) テレラジオロジーは、遠隔医療として定着してきている。
- (2) 商用事業者の登場により、支払・収入のある分野となった。
- (3) 病院・診療所による実施例では、収入面で苦しい。
- (4) 医療の質について、今後の議論が必要である。

# テレラジオロジーの概況分析

平成16年3月5日  
セコム株式会社  
長谷川高志

## 施設種類と規模

施設分類	床数					年回診	総計
	500床以上	300床以上	200床以上	20床以下	なし		
画像診断・撮影センター(企業)					2	1	3
個人事務所・企業					2	1	3
公的検査所				2	2		4
公的病院	9	11	15				35
大学病院	16						16
民間検査所				2	3		5
民間病院	4	1	10				15
民間者						4	4
総計	29	12	25	4	9	8	85

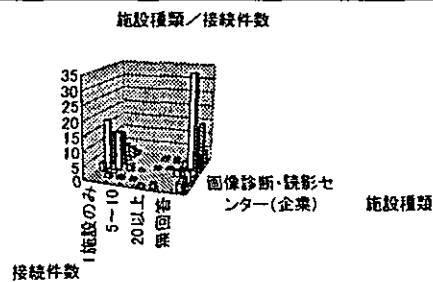


## 施設種類と施設規模

- 大規模病院での実施件数： 大学病院
- 中規模病院の実施件数： 公的病院
- 小規模病院での実施も広がっている。
- 実施施設の裾野は広がっている。

## 施設種類と接続件数

施設種類	施設規模							合計
	1施設のみ	2~5	5~10	10以上	10以上	50以上	府国営	
画像診断・造影センター(企業)					1	2		3
個人受診所・企業		1	1	1				3
公的病院	2	1						4
公的病院	17	13	2	1			2	35
大学病院	11	2			1	1	1	16
母体診療所	1	2					2	5
民間病院	9	4			1	1		15
民間営	3	1						4
合計	44	24	3	2	3	4	5	85

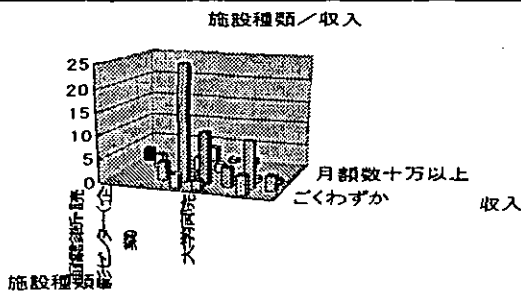


## 施設種類と接続件数

- 商用事業者の接続件数が多い。
- 大半の施設では、数件以下
- 病院でも、接続件数の大きな施設が出現。

## 施設種類と収入

施設分類	通院医処からの収入					総計
	こくわすか	なし	月額10万	月額10-20万	月額20-30万	
画像診断・放射センター(企業)					3	3
個人事務所(企業)				3		3
公的診療所		4				4
公的病院	3	25	1	3	3	35
大学病院	2	11		2		16
民間診療所		4			1	5
民間病院	4	10	1			15
無回答		3	1			4
総計	9	57	3	8	3	85



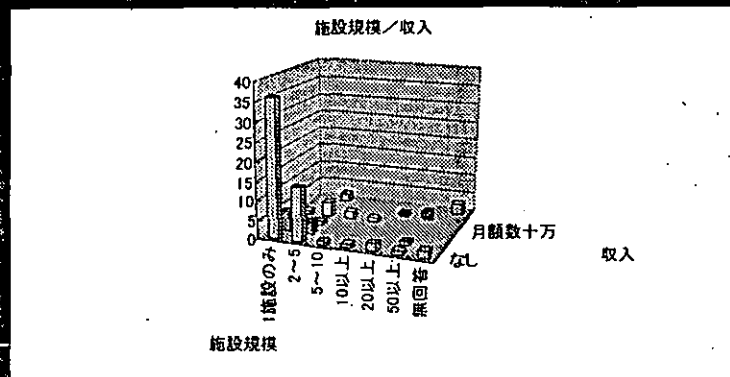


## 施設種類と収入

- 商用事業者が高収入である。
- 半数以上が収入は無い。
- 一方で、病院でも数十万の収入のケースがある。

## 接続件数と収入

連携施設数	連携施設からの収入						総計
	なし	ごくわずか	月額数万	月額数十万	月額数十万以上	無回答	
1施設のみ	36	5	2	1			44
2~5	14	3	1	4		2	24
5~10	1			2			3
10以上	1			1			2
20以上	2					1	3
50以上	1	1				2	4
無回答	2					3	5
総計	57	9	3	8	3	5	85

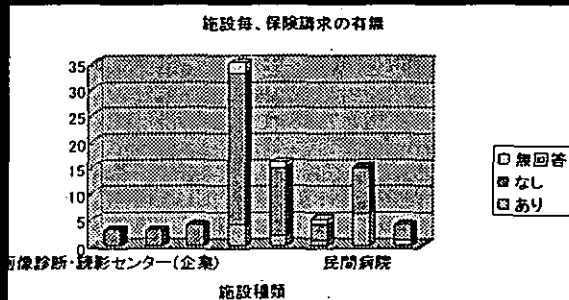


## 接続件数と収入

- 接続件数が多いほど、収入も多い。
- 収入が数十万円以上では、商用事業者が多い。
- 病院でも、数十件接続・数十万円プレイヤーは出ている。

## 保険請求

施設種類	保険請求			総計
	あり	なし	無回答	
画像診断・撮影センター(企業)		3		3
個人事務所・企業		3		3
公的診療所		4		4
公的病院	4	29	2	35
大学病院	2	13	1	16
民間診療所	1	3	1	5
民間病院	6	9		15
無回答	1	3		4
総計	14	67	4	85



# 保険請求

□ 保険請求している施設は少ない。

医療の質

効果の実証

施設分類	最低要度	準低要度	中置要度	準高要度	最高要度	無回答	総計
画像診断・造影センター(企業)				1	1	1	3
個人事務所・企業	1				2		3
公的診療所		1			3		4
公的病院			3	5	22	5	35
大学病院			2	2	12		16
民間診療所				2	1	2	5
民間病院			2	1	10	2	15
無回答						4	4
総計	1	1	7	11	51	14	85

施設分類	遠隔医療の効果の実証データ						総計
	最低要度	準低要度	中置要度	準高要度	最高要度	無回答	
画像診断・造影センター(企業)					1	2	3
個人事務所・企業	1	1				1	3
公的診療所	1	1				2	4
公的病院			15	5	13	2	35
大学病院			0	3	6	1	16
民間診療所			1	2	1	1	5
民間病院	4	1	3	1	5	1	15
無回答					2	1	4
総計	6	3	25	14	31	6	85



## 医療の質、実証に関する意識

- テレラジオロジーは、技術的には満たされている。
- 実証データも、最重要としない回答が少なくない。
- 顔が見えない。臨床情報の不足。等の品質上の不安意見もある。
  - 撮影側の技量のバラツキの問題を指摘する意見は、医学放射線学会(遠隔画像診断部会)でも出た。
- 単なる診断のみでなく、診療コンサルテーションに意識が向いている施設も出現している。
- 費用面の苦しさ、継続性への不安意見もある。
- 前向き・後ろ向きの意見が分かれている。



## まとめ

- テレラジオロジーは、遠隔医療として定着してきている。
- 商用事業者の登場により、支払・収入のある分野となった。
- 病院・診療所による実施例では、収入面で苦しい。
- 医療の質について、今後の議論が必要である。